

2017年12月度のトピックス

12月28日

予定を一日早めて年内練習が終了



全体練習は26日に終わり、昨日より通学可能な部員による練習となったが、熱心な部員は片道2時間半かけて始発でグラウンドへ。最終日の29日は午前の清掃のみで昼前には解散になる毎年であるが、片道2時間半かけてきて、清掃だけで終わりはちょっと気の毒かと数名の部員に「明日は掃除だけだから休んで良いよ」と声かけしたところ、「最後まで来させて下さい」との声。そこでスタッフで話し合い、28日の帰宅が少々遅くなくても今日中に全ての清掃を終えさせる方が良いと判断。練習を終えたあと、全員で担当箇所を決めて大掃除となった。

12月28日

埼玉西武ライオンズの金子侑司OBが挨拶に



埼玉西武ライオンズの金子侑司OBが年末帰省に際して、三室戸グラウンドに挨拶に訪れた。昨シーズンはパリーグ盗塁王のタイトルを獲得し、今シーズンは中盤戦よりレギュラーとなり活躍した。

現役部員にとってはまさに「憧れの人」であるが、高校時代の卯瀧前監督もグラウンドに訪れており、里井現監督らと交えてしばし談笑。来シーズンへ向けての自主トレは新春5日からとか。どちらかといえば線が細かった高校時代だが、当然ながら胸板も厚くなり、風格がうかがえた。

12月24日

都大路で高校駅伝の応援に参加



第1回から29回連続出場を誇る高校駅伝の応援に今年も駆けつけた。女子陸上部は毎日朝練とともに頑張る仲間。今年は2年生部員のほとんどがスタートゴールの西京極陸上競技場に、1年生部員のほとんどが折り返し地点に集結できるように配置され、大声で力走するタスキリレーする部員の追い風となった。

陸上部は会心のタスキリレーで3年ぶりに入賞し、4位に食い込んだ。硬式野球部員にも大きな感動と励みを与えてくれた。

12月13日

4回生OBふたりが「授業+R」で講師で来校



懐かしい二人が部長を訪ねてくれた。大学4回生の森矢真人OBと杉山優太OB。本日の5限目の高校2年生対象のキャリア企画「授業+R」で、高校生の前で講師として話をするためだ。森OB(左)は現役時代は主務兼務で活躍し、杉山OB(右)はデータ分析で当時の卯瀬監督が舌を巻くほどの分析力を発揮した。そのノウハウは今も引き継がれている。

森OBは商船三井へ内定し、杉山OBはスイス銀行へ内定しているとか。「スイス銀行って世界で最も信用度が高く、ゴルゴ13のデューク東郷がお金を預けているところか」と部長が質問したら、「そうです」と笑いながら答えていた。

硬式野球部 [TOP PAGE](#)へ

2017年11月度のトピックス

11月26日

チーム代表1年3名がトレーニング講習会へ



毎年11月最終日曜日に行われる京都府高野連主催の冬季トレーニング講習会に、1年部員3名がチームを代表して参加した。吉村(捕手)・今野(内野手)・上田(外野手)で、他校の他校の選手に混じって、社会人野球の強豪・日本新薬の選手の指導を受けた。

午前中のスイング指導では日本新薬の選手につきっきりの指導を受ける場面も。昼休みには「むちゃくちゃ勉強になります」と声をそろえた3名だが、今日勉強したことをチームに還元するのがこれからの役目である。

11月25日

硬式野球部を撮り続けた女子高生



いつの頃からかグラウンド1塁側に本格的なカメラを構えて写真を撮る女性が現れた。最初は野球好きな子ぐらいにしか思っていなかったが、三室戸での練習試合には必ずといっていいほど登場し、いつしかう保護者にも顔や名前が知れ渡るようになった。

宇治市に住む府立高校3年生で、カメラはかなり本格的。彼女のブログに上がる写真は、素晴らしいと保護者も絶賛。来春からは地元企業に就職するため、この日が最後かもしれないと、現役部員に差し入れ。お礼に試合後にグラウンドに入っただき、井上主将から粗品を渡し、記念撮影を行った。

11月25日

今シーズン最終戦連勝、47勝5敗2分



25日(土)、今シーズン最終の練習試合が行われた。2試合とも大差で勝利し、これで新チームの成績はAチームに限ると47勝5敗2分となった。秋季大会の準決勝の乙訓戦が関東遠征での東海大相模以来の2ヶ月ぶりの敗戦であり、新チーム唯一の0行進であった。

大会終了後に複数のポジションでコンバートも行き、新たな展望も見えてきた。来春に向けてこの冬をいかに過ごすのか、捲土重来の時である。

11月23日

3年生6名が大学の練習に体験参加



夏の大会終了後、大学の硬式野球部入部の意思表示をしていた7名が、この日練習に体験参加した。かつては夏休みに参加し、その実力によっては人数を絞り込まれたこともあったが、後藤監督になってからは「希望者を門前払いしたくない。理想は付属出身の部員がたくさん活躍してくれること」と熱い期待を寄せていただいている。

この日はあいにくのグランドコンディションで、室内練習場での練習となったが、グループ別の練習では3年生が参加する時間帯に、本校OBを集めて下さるなど配慮いただいた様子。引率した石川部長も1～3回生までの懐かしいOBのプレーぶりも気になったようだ。

11月19日

雨にたたられた洛南交流試合



晩秋の恒例・洛南交流試合が始まったが、今年は週末が連続して雨で、なかなか日程が思うように進まない。A.Bの2チーム編成となるため、秋季大会で活躍できなかった部員には格好のアピールの機会となるが、雨だけでは勝てない。

この日はAチームは滋賀県のチームと練習試合を行ったが、午後からBチームは東宇治へ移動し、洛南交流試合に参加した。

もともと9名しかいない東宇治だが、この日は両チーム合同でゲーム前ノックを打って貰った。地元交流戦ならではの光景である。

11月12日

センバツ準Vメンバー3年と対戦する



この日、Aチームは岐阜へ日帰りで遠征したが、Bチームはホームで履正社と対戦。履正社は大学で野球を続ける3年部員については、現役を退いた後も練習に参加させているとか。この試合が組まれた時から、履正社からは「3年生を連れていくので、第2試合は3年数名を木製バットで試合に出場させるので了承して欲しい」と申し入れがあった。履正社の3年生といえば、決勝戦で大阪桐蔭に敗れたが、センバツ準優勝メンバー。良い機会ととらえ、こちらも西成をBチームに残して迎え入れた。

西成は9回を完投し、被安打5、奪三振16と徐々に気合いの入った投球で、勝利をもたらした。

2017年10月度のトピックス

2017年度 秋季京都府高等学校野球大会 速報

10月21日

大型台風接近、この秋2回目の暴風対策



秋季大会終了翌日から中間テスト1週間前に入り、昨日より全体練習を再開したが、部員、特にこの間出場機会に恵まれなかった者にとって目標のひとつとなるのが洛南交流試合。今年もA.Bの2チーム編成で参加の予定であるが、いきなりの台風接近でこの週末の試合は早々に流れた。

授業を終えて午後からグラウンドに集まった部員は、傘を差しながら翌日の暴風に備えてのネット下ろしの作業を行った。台風の当たり年には1シーズンで5回の作業を行った年もあったが、今シーズンは2回目。これが最後であることを願いたい。

10月21日

延期されていた保護者会を実施



10月9日に実施予定であった保護者会定期総会が生徒寮で実施された。9日は秋季大会3位決定戦となったため、夜の懇親会のみが実施された。

台風接近で昼前から大雨となったが、出席率はいつもながら高く、冒頭には石川部長から「現場からの報告」があった。試合や年末年始の予定などなど。保護会では新春の恒例行事となっている炊き出しのイベントなどについても話し合われた。

硬式野球部 TOP PAGE

平成29年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

10月9日（月祝） 3位決定戦 対西城陽（わかさスタジアム）

6番 さらに弱点露呈、厳しい3位

○ 立命館宇治 000 000 003 006=9

● 西城陽 000 000 021 003=6

【立】高木、西成、秋森、前田－横田、吉村

【西】井上、安井、松本－杉本

▼3塁打 若狭(西)

▼2塁打 藤田、衣川、上田(西)、大住(立)

【寸評】

「次に繋がる試合をしよう」と誓って挑んだ3位決定戦であったが、さらに弱点をさらけ出す結果となり、厳しい3位となった。

同点の延長12回表は6番・大住の3塁線2塁打と7番・ト部の右前打で無死1.3塁とすると、続く8番・秋森の投ゴロが挟殺ミスと呼び、無死満塁。9番・横田が内野フライで1死となった後、1番・上田から3死球3安打の打者一巡で6点を入れた。

試合は無為にアウトを繰り返す展開で、8回にまたも四球と失策でピンチを作り、6回からリリーフしていた西成が高めに浮いた球を痛打され、2点を先制された。9回表は2死無走者となり、万事休すかと思われたが、ここから3連続四球と内野安打で逆転。

昨日に引き続き、同じ者が同じミスを繰り返すばかりでなく、リリーフした2年生投手陣がリードを貰っては自らを見失う投球で、何とも後味の悪い締めくくりとなった。



写真は先発し、5回を0封した高木要(1年)

10月8日（日） 準決勝 対乙訓（わかさスタジアム）

番 被安打3の森井を援護できず

- 乙 訓 020 000 000=2
- 立命館宇治 000 000 000=0
 - 【乙】 富山、川畑-薪谷
 - 【立】 森井-横田

【寸評】

「試合はロースコア、ミスをした方が負ける」という試合前の予想が具現化され、序盤での守りのミスが試合を決定づける痛い敗戦となった。

2回の守備では無死の走者をバント処理ミスで1.2塁とされ、暴投で2.3塁へ進まれた後、後続を内野ゴロに打ち取ったが、挟殺でミス。続く打者に犠牲フライを打たれ、今大会初めて先制を許した。

攻撃では乙訓先発のサウスポーに6回まで2塁すら踏めず、唯一のチャンスは7回の1死2.3塁。6番上田は芯で捉えたが左翼ライナーとなった。

森井はバックのミスで2点を許したが、自責点はゼロ。乙訓打線を被安打3に抑えながら、攻撃陣に反撃を託したが、相手打線を上回る5安打を得点に結びつけることはできなかった。

立命館宇治は目前の近畿大会出場権を逸し、9日に3位決定戦を戦う。



写真は乙訓打線を3安打に抑えた森井舜也(1年)

9月30日(土) 準々決勝 対京都外大西 (わかさスタジアム)

番 打線の組み替えが功を奏し、連続コールド

- 立命館宇治 310 040 2=10
- 京都外大西 012 000 0=3 (7回コールド)
 - 【立】 森井-横田
 - 【京】 江頭、田辺、佐竹-伊藤、関
 - ▼本塁打 伊藤(京)
 - ▼3塁打 卜部(立) ▼2塁打 丈達(京)

【寸評】

立命館宇治は初回相手失策から先制すると、5番・大住の左前打、押し出して計3点と試合を優位に進めた。2回には3番・森本の左前タイムリーで加点。

1点差に迫られた5回には5四死球と失策、1番・ト部の左中間3塁打で再び突き放した。

7回には2死2.3塁から6番・上田が右中間へ落として、7点差とした。

この1週間、相手投手陣を分析し、エースナンバーの左投手を攻略した後のサイドハンドが鍵を握ると読み、大谷戦では先発を外れた左打者・ト部を1番に起用したが、3塁打を含めて3安打と期待に応えた。1ヶ月以上4番に座っていた西成を外す布陣となったが、見事的中した。

先発した森井は京都外大西の強力打線を5安打に封じたが、7四死球で3点を献上した。

立命館宇治はベスト4へ進出。10月7日に決勝戦進出をかけて準決勝を戦う。



写真は1番起用に控え3安打したト部大輝(2年)

9月23日(土) 2回戦 対大谷 (太陽が丘球場)

9番 序盤から着実に加点し、7回コールド

○	立命館宇治	021 301 4=11
●	大谷	000 100 1=2 (7回コールド)
	【立】	森井-横田
	【大】	山本迅、永倉、松下-池永
	▼本塁打	横田、森本(立)
	▼3塁打	山内(大)▼3塁打 井上、森本、大住(立)

【寸評】

立命館宇治は2回無死1.3塁の好機に、8番・横田がスクイズを敢行し、先制。9番・今野の遊ゴロが失策となり、2点目を入れた。3回には2死2塁から7番・森井が左越えを放ち3点目。4回には1番・井上、3番・森本の2塁打を含めて4安打を集めて3点を加点。

6回には2死2塁から6番・上田が左前へ運び、7回には横田のソロ、森本の2点本塁打などで4点を加えた。

先発した森井は7安打を打たれたが1四球。1～3番の上位打線は無安打に抑えたが、今大会初の2失点を喫した。

立命館宇治は3年ぶりにベスト8へ進出。9月30日(土)、わかさスタジアムでベスト4進出をかけて、京都外大西と対戦する。



写真は2安打と活躍した上田龍一郎(1年)

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	森井 舜也	1	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
2	捕	横田 雄太郎	2	榛原 (奈良)	中学野球
3	一	森本 晃太郎	1	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
4	二	西 祥太郎	2	桜井西 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
5	三	大住 優賀	2	城陽	シニア 京都木津川
6	遊	今野 優斗	1	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
7	左	西成 漱石	2	桃陵	ボーイズ 枚方
8	中	井上 光志郎	2	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
9	右	卜部 大輝	2	立命館宇治	中学野球
10	投	高木 要	1	桂	中学野球
11	投	前田 丈太郎	2	シカポール日本人学校 (海外)	その他
12	捕	吉村 仁	1	守口第一 (大阪)	ボーイズ 守口
13	内	福塚 真広	1	広野	ボーイズ 京田辺
14	内	柳原 悠輝	1	寝屋川第一 (大阪)	ボーイズ 寝屋川
15	内	田中 優寿	2	立命館宇治	中学野球
16	内	古賀 風地	1	立命館宇治	中学野球
17	内外	上田 龍一郎	1	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
18	投	秋森 晃希	2	枚方 (大阪)	シニア 高槻
19	外	中村 滉成	1	石橋 (大阪)	シニア 豊中
20	外	保田 悠介	2	楠葉西 (大阪)	ヤング ヤングホークス

1次戦

9月2日(土) 決勝 対京都翔英 (京都翔英G)

初回5安打集中で5点先制

○ 立命館宇治 500 010 0010=16

● 京都翔英 000 000 001=1

【立】 森井、高木-横田

【京】 今井、遠藤、松原-鈴木

▼本塁打 井上、上田(立)

▼3塁打 森本(立)新田(京)▼3塁打 卜部(立)山本(京)

【寸評】

立命館宇治は初回2死2.3塁から5番・大住が三遊間を破り、2点を先制すると、続く6番・森本が中越3塁打、7番・上田、8番・横田が連続で三遊間を破り、最後は1番・卜部が中前へ弾き返し、大量5点を先制し、試合を優位に進めた。

なかなか追加点を奪えなかった5回には4番・西成の左前打を送った後、6番・森本がしぶとく中前へ落として追加点。9回には3番・井上の満塁ホームラン、上田の3点ホームランなど13人攻撃で大量10点を入れた。

先発した森井は8回を6安打、3四死球、5奪三振で0封。チーム無失点記録を47回に伸ばしたが、最終回に登板した高木が2死無走者から連続長打を浴び、1点を献上した。

立命館宇治は昨年に続き、2次戦に進出を決めたが、1位通過は3年ぶり。

【登録メンバーの変更】

背番号3

【新】 平井 秀明 2年 鳥取(大阪) ポーイズ/大阪泉南

【旧】 福塚 真広 1年



写真は初回に先制タイムリーを放った大住優賀(年)

8月27日(日) 2回戦 対山城 (立命館宇治三室戸G)

着実に加点し、7回コールドでブロック決勝



○	立命館宇治	030 330 0=9
●	山城	000 000 0=0 (7回コールド)
	【立】	森井-横田
	【山】	今川、田中、下西-林
	▼本塁打	井(立) ▼本塁打
	▼2塁打	井上、西成、大住、森本(立)

【寸評】

立命館宇治は2回、2安打1四球で得た無死満塁の好機に、8番・横田が左前へ先制打。続く9番・森井が犠飛、1番・ト部も中前へタイムリーを放ち、3点を入れた。4回には1死1塁から3番・井上が左翼へ2点本塁打。2死後には5番・大住、6番・森本の連続2塁打で加点し、大勢を決めた。

先発した森井は6安打を打たれたが、うち3本は内野安打。2四死球で8奪三振。特に2回無死1.2塁からの三者連続三振は圧巻であった。

立命館宇治の投手陣は8月23日の練習試合からこの日まで38回連続無失点を継続中。



写真は公式戦初出場で2安打を放った森本晃太郎(1年)

8月26日(土) 1回戦 対西京 (立命館宇治三室戸G)

番 上位打線振るわず、下位打線奮起

○ 立命館宇治 002 201 002=7

● 西 京 000 000 000=0

【立】西成、森井-横田

【西】岩田-舛田

▼2塁打 福塚(立)

【寸評】

立命館宇治は3回、相手の守備の乱れから先制すると、2死3塁から3番・井上が中前へはじき返し2点目。続く4回には8番・横田の三遊間タイムリーと暴投で加点した。さらに6回には2死3塁から横田がこの日2本目のタイムリーを放ち、大勢を決した。

先発の西成は、球速はなかったが、丁寧な投球を心掛け、8回で被安打2、四球1、10奪三振で森井へスイッチした。森井も三者凡退で退け、走者は1回と5回に許したのみ、それ以外の7回はすべて三者凡退で退けた。

攻撃は9安打中5安打が内野安打。夏を経験している卜部、西、西成のバットからは快音が聞こえず、下位打線の奮起が目立った。



写真は2安打2打点の横田雄太郎(2年)

登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	森井 舜也	1	二名 (奈良)	ボーイズ 枚方
2	捕	横田 雄太郎	2	榛原 (奈良)	中学野球
3	一	福塚 真広	1	広野	ボーイズ 京田辺
4	二	西 祥太郎	2	桜井西 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
5	三	大住 優賀	2	城陽	シニア 京都木津川
6	遊	今野 優斗	1	瓦木 (兵庫)	シニア 西宮
7	左	西成 漱石	2	桃陵	ボーイズ 枚方
8	中	井上 光志郎	2	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
9	右	卜部 大輝	2	立命館宇治	中学野球
10	投	高木 要	1	桂	中学野球
11	投	田村 竜一	2	加茂川	ボーイズ 京都洛中
12	捕	松本 滉成	1	山科	少年野球 百々ユニオンズ
13	内	森本 晃太郎	1	下津第二 (和歌山)	シニア 有田
14	内	柳原 悠輝	1	寝屋川第一 (大阪)	ボーイズ 寝屋川
15	内	田中 優寿	2	立命館宇治	中学野球
16	内	古賀 風地	1	立命館宇治	中学野球
17	内外	上田 龍一郎	1	三田学園 (兵庫)	ボーイズ 三田
18	外	福西 峻介	2	上北山 (奈良)	ボーイズ 宇陀
19	投	前田 丈太郎	2	シンガポール日本人学校 (海外)	中学野球
20	投	秋森 晃希	2	枚方 (大阪)	シニア 高槻

硬式野球部 TOP PAGE△

2017年9月度のトピックス

9月22日

学園祭で1.2年の48名が受け付け係を



昨年に続き、学園祭学校企画で1.2年部員48名が受付係としての仕事をこなした。昨年から学園祭の様々な場面で運動系クラブが役割を分担しているが、部長が生徒部長という関係で、当日に時間が拘束される役割となっている。

田中主務の決めた分担に従い、一人30分の拘束であるが、担当教員からは「さすが硬式野球部。みんな5分前集合ですね」とお誉めの言葉をいただいた。

[硬式野球部 TOP PAGE](#) ^

2017年8月度のトピックス

8月23日

33戦28勝3敗2分、驚異的勝率で秋季大会へ



新チーム以降、秋季大会までに予定していた全ての練習試合が終了した。対戦相手はここ数年大きく変わらなかったが、結果は33戦28勝3敗2分。勝率は近年最高であった。

今回のチームは派手に打ち勝つのではなく、投手を中心にしっかりと守り抜くのが特徴。33試合のうち、勝ち又は引き分けで相手を完封したのは13試合。2失点以内まで幅を広げると17試合となる。3点差以上の完敗は東海大相模のみ(5点差)。

投手陣は夏に実績のある西成にやや疲労が見られたが、最終戦で4安打完封。森井、高木の1年生コンビはほぼ無失点で投げ切り、田村、前田の2年生も高速スライダーを武器にブレイク。ショートリリーフの秋森を加え、誰が1番を背負ってもおかしくない状況で、連投は2日までとやりくりできたため、故障者も出なかった。

「捕手不在」が懸念されたが、横田が力をつけ、盗塁阻止率は歴代捕手の中でも高い。

里井監督は昨年の長谷川、藤原のような頼れる打者がいない代わりに近年稀にみる豊富な投手陣に対して、まずは徹底的にディフェンスを強化し、関東遠征から戻るまで打撃練習は行わなかった。そして遠征でディフェンスで使えそうな面々が絞れてくると、秋季大会へ向けて、脚力を絡めたつなぐ打撃を徹底させた。

練習試合と公式戦は全くの別ものだということは承知の上。この数字と育成が秋季大会でどのように発揮されるか楽しみである。



8月21日

3度のセンバツ出場、メモリアルプレート設置



立命館宇治以降、甲子園に出場した3度のセンバツ。その記念プレートが室内練習場の外壁面に設置された。過去にも設置を検討する声はあったが、今回は3年生の長谷川保護者会長をはじめとした3年生保護者で起案いただき、保護者会定時総会で承認された。

グラウンドに入ってきた人は誰もが通る目立つ場所で、前年の秋季大会のスコアから出場に至るまでの軌跡を知ることができる。

現役メンバーも早く先輩を追い越してほしい。

8月20日

立場が変われば...オフ返上を申告し、練習



この夏休みは計画的に宿題ができるようにと予定表にオフが明記されているが、20日は2年生から練習したいと申告があり、自主的に集まったメンバーで半日練習が行われた。

実は現2年生はGW直前の校外学習で意図的に時間調節し、グラウンドに遅れて戻ってきたメンバーがおり、そのことがばれて、石川部長から「背番号をもらえていない3年生の気持ちを考えたことがあるか」「シード権獲得のために龍谷大平安に挑む3年生の意欲に冷や水をかける行為」と大目玉を食らった経緯がある。その後プレーで結果が出なかったり、故障するたびに、部長からは「野球の神様は見ていた」「琵琶湖の祟り」と嫌味を言われ続けてきたが、この休日返上練習を野球の神様は見てくれていたか。週末からは秋季大会である。

8月13日

遅まきながら?? セカンドユニフォームの採用



今や高校野球チームの7割が採用している練習試合用のセカンドユニフォーム。立命館宇治はずっと試合用1着で練習試合も公式戦も戦ってきたが、3年生になると胸文字の色が落ちてくるなど、ダメージがないといえない状況。

今回、新チームを機会にセカンドユニフォームの採用を決定。この日、全員に配られた。連盟規定にとらわれない派手なデザインを採用したり、気軽に着用できるTシャツ類のチームもあるが、「基本は練習用ユニとの兼ね合いで白」「ロゴは試合用と同じ」というコンセプトだ。本日の練習試合からグラウンドに初登場となる。

8月12日

「やっと活躍の場が」 B戦で大暴れ



関東遠征では6試合で48名の部員中、10数名しか出場できなかったが、この日はこの時期には珍しいB戦が組まれた。愆意にしている奈良大付と関西遠征している益田東との変則ダブルだが、A戦がホームで行われる一方、B戦は奈良大付のグラウンドで行われた。

関東遠征で出場機会に恵まれなかった面々は、そのうっ憤を晴らすかのように躍動。久々の登板となった前田が奈良大付打線を2安打完封で11-0。第2試合の益田東戦は終盤までもつれる展開となったが、終盤に集中打を發揮し、連勝した。

試合中には里井監督から「Aで使えそうな子はいますか」と電話が入るなど、まだまだメンバー争いの勝負は決していない。

8月10日

東海関東遠征番外編 遠征後の試合に備えて



今回の遠征では初日の岐阜での第2試合をB戦と設定したが、台風のために中止。結果3チームとのダブルとなった。いつものことながら、第1試合に勝てば第2試合はメンバーを少しは入れ替えることも可能だが、桐光学園、東海大相模では1試合目に敗戦したため、連敗を避けるべくバックはほぼ同じメンバーに頼ることに。特に主将の井上と副主将の西は全試合フルイニング出場。

一方下級生の多くはなかなか出番がなく、試合の観戦が中心。全国屈指の強豪校を目の当たりにすることそのものも勉強だが、この日は遠征後のB戦に備えて、サブグラウンドで岩崎副部長の指導で練習が行われた。

8月10日

東海関東遠征番外編 保護者が帯同応援



出発日から多少の入れ代わりはあったものの、連日グラウンドには保護者が応援に駆けつけた。遠征といえばホテルで少ない洗濯機に部員が殺到し、それだけでかなりの時間が割かれたが、昨年から試合後すぐに保護者に大型ランドリーでの洗濯をお願いすることにより、部員はホテルでの生活は夏休みの宿題に専念できている。

中には3泊4日の皆勤賞の保護者もおられ、スタッフが気が付かない部分も差し出がましくならないように気を利かせてくださり、恐縮の限りであった。

8月10日

東海関東遠征4 関東遠征初の勝ち越しで終了



最終日は疲れからか相手投手に完全に封じられ、9回1死まで無安打。まさかノーヒットノーランを喫するかと思われたが、この試合二度目のチャンスに4番・西成が右前へタイムリーを放ち同点。続く内野ゴロの間に2点目が入り、逆転サヨナラとなった。2試合目は今遠征初登板の田村が粘投し、連勝。

結局今回の東海関東遠征は3勝2敗1分と勝ち越した。桐光学園の1試合目の9回逆転負けが悔やまれるが、1年投手陣は急成長。この日の1試合目もリレーで1失点であった。

ナインはお盆の帰省ラッシュに巻き込まれることが心配されたが、渋滞なく22時過ぎに無事に宇治に帰着した。

8月9日

東海関東遠征3 東海大相模に逃げ切りならず



過去8戦し、1勝しかしていない東海大相模に挑んだ。グラウンドに入るなり、甲子園での試合でしかみたことない「Tokai」のロゴとそのオーラに圧倒されるのは毎回のこと。

第1試合は「西成にもう一度先発を」という上級生の気持ちを汲み、相手エースと対決。夏の神奈川決勝で横浜と戦ったレギュラーが残る打線は、少しのコントロールミスも見逃してくれず、打線もわずか3安打に封じられ完敗。

第2試合は前半で最大5点をリードしたが、中盤で追いつかれ、再度リードするも一発攻勢でまたも追いつかれる展開。最後は高木が渾身のリリーフで相模打線にリードを許さず引き分けた。

8月8日

東海関東遠征2 昨年連敗の桐光学園と



昨年の遠征で完ペきに打ちのめされた桐光学園に今年も胸を借りた。台風余波が心配されたが予定通り朝から2試合。

第2試合では先の西脇工業戦で無安打完封リレーした1年生コンビが登板。森井が5回1失点(自責点0)～高木4回2失点リレーで、7-3で勝利。第1試合は夏のエース西成が4本塁打を浴びながらも8回までもらった2点のリードを守り切れず7-8と逆転負けを喫した。

桐光学園の野呂監督からは「来年もやりましょう。けど明日の東海大相模はこんなものじゃない。もっともっと強烈ですよ」という激励をいただいた。

8月7日

東海関東遠征1 台風接近で移動のみ



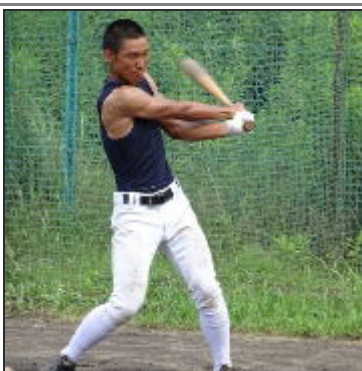
東海関東遠征初日は台風接近が予想され、前日に夜には岐阜で行う予定の試合中止が決定。初日は移動日となった。3回の休憩を挟んでチームは東京多摩市のホテルに入った。

ホテルの部屋割りはシングルとツインの組み合わせ。当然、上級生はシングル、下級生はツインとなるのかと思いきや、上級生にツイン希望者が多かった。理由は「朝の寝坊防止のため」とか。全てにおいて「5分前行動」が常識であるが、特に朝の寝坊遅刻に関しては厳しい。

今回は対戦校に近い宿泊のため、ホテルからの移動時間も短く、夏休みの宿題にも取り組めるはずである。

8月6日

11勝1敗で東海関東遠征へ。本当の力試し



先月末から始まった練習試合は12試合を終えて11勝1敗。「リーダー不在」「正捕手不在」「主軸不在」と思われたが、当初の監督構想とはいくつかのポジションで切磋琢磨しながら、ようやく試合らしいことができるようになってきた。

明日7日からは東海関東遠征。例年は「頼れる投手一人」という状況での強行日程であったが、今年は夏を経験した西成をはじめ、ある程度任せられ投手

が複数いるのが心強い。桐光学園、東海大相模などのホンモノにどこまで通用するか。

8月6日

目標達成率50パーセント。夏休み宿題点検



昨年に続き、夏休みの宿題点検(中間)が行われた。達成率目標は50%。それぞれが点検表に達成率を記入し、顧問の点検を受けた。

かつては各自に任せていたが、夏休み明けの未提出呼び出し・居残りが目立ち、秋季大会の集中練習にも支障が出たため、今回は8月25日の最終点検日100%を達成を目指させている。

未達成者は「秋季大会初戦のベンチ入りから外れる」という宣言をしているが、去年は3名も出た。うち1名は背番号予定者であったが、ベンチからは外さざるを得なかった。

硬式野球部 [TOP PAGE](#)へ

2017年7月度のトピックス

第99回全国高等学校野球選手権京都大会 特集

7月30日

後少しで思感通りに...秋季大会1次戦抽選会



井上主将が秋季大会抽選抽選会に挑んだ。部長との思感は1次戦で龍谷大平安と同ブロックに入ること。このブロックで一度は対戦し、勝敗はどうなっても2次戦に進出すれば、龍谷大平安とは自動的に逆ブロックになる。39番目にくじを引いた後はなかなか対戦相手が決まらず、残り2校に。龍谷大平安か西京か...。残り数校になったあたりから、「これはもしかして初戦で」と盛り上がる部長と井上主将であったが、先にくじを引いた西京が立命館宇治の横を引き、対戦相手が決まった。

7月27日

井上新主将で新チームの練習試合スタート



新チームの主将は夏に3番打者として活躍した井上光志郎に決定。副主将は夏を経験した西祥太郎、大住優賀、西成漱石が務めることになった。リーダー不在と言われた学年だが、夏を経験したこの4名がチームを引っ張らないと先行きは明るくない。この日から練習試合がスタートしたが、これらメンバーは自分のことで精一杯。プレーや激励の声でチームを引っ張ってきた旧幹部の足元にも及ばないが、まだまだこれからであり、今まで先輩たちに引っ張ってきてもらった分を後輩に還元していく番だ。

7月24日

キャッチボールの相手を定める、遠投測定



新チーム発足以降、部員たちは練習前に自主的にミーティングを行っているが、この日は練習開始早々に里井監督から遠投測定の指示が出た。入部以来の慣習でキャッチボールの相手が固定されており、適正な相手とできていないのではないかという疑念からである。投手、またはバッテリー、1、3塁手、二遊間、外野と相手はポジションによって自然と別れそうなものだが、肩の強い弱いも関係なく、いつも同じ相手と行っているのが現状。この日の測定では90メートル越えが10名ほど。この結果を記録し、適正な相手が決められた。

7月21日

異例の暫定リーダーで新チームスタート

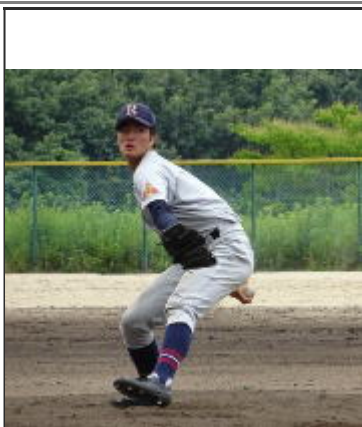


選手権京都大会敗退後は、即日新チームがスタートするのが恒例。他チームは早くも1か月後の秋季大会を目指してスタートしているので猶予はない。

近年はある程度2年生にリーダー格が育っており、幹部バトンタッチもスムーズに行われてきたが、今年は確信をもって任せられるリーダーが現段階では不在。そこで当面は選手権でフル出場した西祥太郎を暫定主将としてスタートすることになった。当然副主将、主務もなし。福知山成美戦では4名の2年生がスタメン出場していたが、「リーダー不在」「正捕手未定」「打線の核不在」からのスタートとなった。

7月6日

春季大会以降、大幅勝ち越しで夏へ



春季大会以降の5.6月は甲子園常連校との定期戦。2番手以降の投手育成も兼ね、なおかつ強化練習期間中でもあるため、大きく負け越すことが多い。しかし今チームは最終戦を終えて20勝4敗と大きく勝ち越した。

投手二人に完投能力がつき、ほぼ1試合を任せて、ある程度の計算が立つようになった。そして例年は守備を強化するこの期間に、徹底的にバットを振らせ、走り込ませた。センバツ出場校の高岡商、滋賀学園をはじめ、他府県の強豪校を次々と負かせたその力が夏に発揮できるのか、いよいよ大会直近となった。

硬式野球部 TOP PAGEへ

第99回全国高等学校野球選手権 京都大会 速報

7月21日(金) 4回戦 対花園 (わかさスタジアム)

番 9回裏、執念の同点も勝ち越せず

○	花園	000 000 230 1=6	
●	立命館宇治	010 002 101 0=5	(延長10回)
		【花】黒飛、加地、入江、時井-松村	
		【立】玉田、西成、卜部-藤原	
		▼本塁打 太田(立) ▼3塁打 長谷川(立)	
		▼2塁打 長谷川(立)	

【寸評】

立命館宇治は1点勝ち越された9回裏2死走者なしから、今大会初打席の代打・水谷が中前打で出塁すると、1番・長谷川主将が右中間を破る3塁打で代走・大西が長駆ホームイン。試合を振り出しに戻した。

10回から登板した3番手・卜部は2死3塁で次打者を追い込みながら、痛恨のワイルドピッチで再度勝ち越された。

試合は初戦で発熱で本来の投球ができなかった玉田が先発。悪いリズムながらも6回まで花園打線を0封したが、7回についにつかまった。満を持して登板した西成は、8回に追い込んでから球が高めに浮いたところを痛打され、5安打を集中されて逆転を許した。

打線は2回に太田が左翼へランニングホームランして先制。しかし以降は花園投手陣から12四球をもらいながら、なかなか追加点を奪えなかった。

悔やんでも悔やみきれない敗戦となったが、リードをわずかな制球ミスでふいにした2年生投手陣はこの経験を今後に生かさなければ、3年生に申し訳ない結果となった。



※写真は9回に同点3塁打を放った長谷川弘(3年)

7月18日(火) 3回戦 対福知山成美 (太陽が丘球場)

序盤から猛攻!! 投打に圧倒し、7回コールド

- 立命館宇治 101 331 0=9
 - 福知山成美 000 110 0=2 (7回コールド)
- 【立】西成-藤原
【福】藤山、中島-楠田
▼3塁打 坂野(福) ▼3塁打 藤原(立)

【寸評】

立命館宇治は初回、福知山成美のエース藤山の4四死球押し出しで先制すると、3回には1死満塁から併殺崩れで加点すると、4回には長短4安打、1点を返された5回にも4安打でさらに3点を追加した。7回で京都屈指の層を誇る福知山成美投手陣から12安打を浴びせた。

立命館宇治の先発西成は立ち上がりから制球に苦しみながらも、7回で被安打5、4四球、9奪三振で完投。

投打が完ぺきにかみ合った立命館宇治は結局7回コールドで完勝した。

立命館宇治は21日(金)わかさスタジアムで古豪・花園と対戦する。



※写真は2失点で粘投の西成漱石(2年)

7月15日(金) 2回戦 対洛陽工・伏見工・京都工学院連合 (わかさスタジアム)

番 発熱エースを西成が完ぺきリリース

- 市立工連合 004 000 000 000=4
 - 立命館宇治 200 110 000 001=5 X (延長12回)
- 【立】玉田、西成-藤原
【連】田井中、熊谷-鵜飼
▼2塁打 熊谷(連)井上2(立)

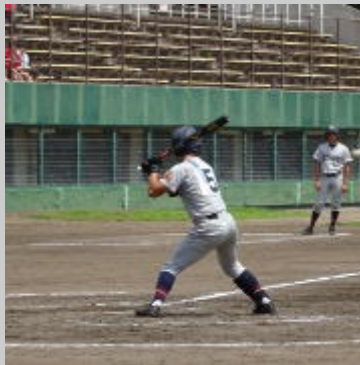
【寸評】

立命館宇治は延長12回裏、1死満塁から押し出しの四球を選び、かろうじてサヨナラ勝ちした。

試合は初回到4安打を集中し、2点を先制。4回には西成のタイムリー、5回には中村の内野安打で加点したが、相手投手の緩い球を打ちあぐね、5度の2死満塁にことごとく凡退し、延長戦を招く結果となった。

先発したエース玉田は前日夜に発熱。この日は3回0/3で7安打を打たれ、早々と降板。本来登板予定のなかった西成はリリーフして9回を投げ、無安打で2四球を与えたのみで、8奪三振で連合打線に2塁すら踏ませぬ完ぺきなリリーフで勝利に貢献した。

今大会に向けてチームのブラッシュアップを図ってきたが、大会に突入してからこの日の玉田を含め、レギュラー3名が高熱を発症。自己管理の甘さがチームを窮地に陥れた。



※写真は先制・同点タイムリーを放った中村(3年)

大会登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	玉田 大剛	3	泉ヶ丘東 (大阪)	ヤング 大阪狭山
2	捕	藤原 彦貴	3	中央 (福井)	ボーイズ 鯖江
3	一	井上光志郎	2	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
4	二	西 祥太郎	2	桜井西 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
5	三	中村 祐太	3	山陽 (兵庫)	ボーイズ 龍野
6	遊	長谷川 弘	3	田辺 (大阪)	ヤング 堺イーグルス
7	左	太田 東吾	3	東生野 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
8	中	今堀 寛基	3	立命館宇治	中学野球
9	右	寺田 泰清	3	御所 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
10	投	西成 漱石	2	桃陵	ボーイズ 枚方
11	投	卜部 大輝	2	立命館宇治	中学野球
12	捕	福井 開人	3	斑鳩南 (奈良)	ボーイズ 志貴
13	内	大住 優賀	2	城陽	シニア 京都木津川
14	内	荒木 耀介	3	二名 (奈良)	シニア 奈良西
15	内	森山 樹	3	四条暁学園 (大阪)	ボーイズ 生駒
16	外	水谷 祐介	3	豊中第九 (大阪)	その他 ニューヤンキース
17	外	大西 大賀	3	立命館宇治	中学野球
18	外	大井 貴之	3	立命館宇治	中学野球
19	捕	岩見 俊哉	3	立命館宇治	中学野球
20	投	秋森 晃希	2	枚方 (大阪)	シニア 高槻

2017年6月度のトピックス

6月26日

3年生が最後の朝練習を終えて



硬式野球部員の苦しい練習のひとつに朝練習がある。週に4日学校で行われる朝練習はかなりハード。今年の3年生は全員がモチベーションを下げることなく、苦しい時も声をかけあって、笑顔で練習を乗り切ってきた。

明日から期末テスト1週間前となり、3年生にとってはこの日が実質最後の朝練習となった。ここ数年、最後の朝練習はいつものトレーニングウェアではなく、中学時代のユニフォームを着用するのが慣例となっており、この日も3年生は中学時のユニフォームに身を包み、汗を流した。保護者も数名駆けつけ、練習後には記念撮影も行われた。

6月25日

選手権京都大会へ向けて、激励会



選手権京都大会の組み合わせ抽選会が終わった翌日、夕刻から大会へ向けた激励会が行われた。ここ数年は室内練習場で短時間で行われるのが恒例で、この日も16時から全部員と保護者が集合し、会長から挨拶。春から保護者が丹精込めて作成した千羽鶴や必勝のお守り、記念品が手渡された。

部長から保護者へのお礼の挨拶があり、長谷川主将が決意表明、里井監督もお礼と抱負を述べた。

大会は8日からだが初戦は出場校中最も遅い15日。まだまだやらなければならないことはたくさんある。

6月24日

サウスポーの系譜、伝家の宝刀を伝授



2年前のエース山下OB(現大学2回生)はセンバツ出場を決めた前年秋の秋季大会では近畿大会の決勝戦までで、1塁走者をけん制で刺すこと12回。特に京都大会決勝の龍谷大平安戦では三度1塁走者を刺した。この必殺技を伝授したのず、1学年上の徳永OB。彼もまた名手であった。

最近左の好投手を打つ機会がなかったと、里井監督がこの二人を打撃投手として呼び寄せた。「その前に」と投手陣を見る卯滝氏が左投手を外野へ集め、「伝家の宝刀」を伝授するようお願いした。

両OBは「教えたからといって、必ずしも全員ができるようになるわけではない」とのことであったが、独特の間合いなど、左投手にしかわからない何かがあるようだ。

6月5日

相応しい「舞台設定」でメモリアル試合を



選手権京都大会では3年生部員全員がベンチ入りできるわけではない。B戦も4月以降は秋を見据えて「1.2年生主体」となった。

1年前に立命館・中村部長と石川部長が「頑張ってきた3年生に最後の晴れ舞台を」と話し合ってきたメモリアル試合がこの日実現した。

通常授業を終えた立命館宇治は2.3年全員が貸し切りバスで皇子山球場に乗り込んだ。またナイター試合のため、多くの保護者が球場に訪れ、声援を送った。

この日までに話し合われてきた内容は

- ・皇子山球場でのナイター1試合
- ・なるべく試合出場機会に恵まれなかった3年生同士
- ・関西学生野球連盟委員による電光掲示板と場内アナウンス



- ・連盟審判員によるジャッジ
- ・2年以下の部員はスタントで3年生の応援

であったが、さらにこの日は

- ・試合前の記念撮影(両チーム合同)
- ・DH制採用
- ・監督が3塁ベースコーチに立つ

などが取り決められた。

それでも試合が進むにつれて、さらに感動の場面が。

・それぞれの側に分かれて先輩を応援していた両校の下級生がバックネット裏に集結し、合同応援

・勝っている後攻チームの最終回裏の攻撃が、相手投手の最終登板に配慮して行われる。

・ゲームセットと同時に両ベンチから選手が飛び出し、マウンド付近で優勝チームにさながらの称え合い

・両校2年生が肩を組んで、夏への健闘を祈って、学園歌を熱唱

など、まさにドキュメンタリー映画そのものの展開となった。



この日が何名かの3年生にとっては最後の出場機会になったかもしれない。そういう意味で残酷な企

画かもしれないが、最後まで頑張ってきたからこそ、周囲の様々な人々の協力で実現した試合であり、この試合に出場できたことを誇りに思ってもらいたい。

6月4日

5～6月は他府県強豪との定期戦で底上げ



中間テストも終わり、いよいよ選手権京都大会の選手登録締め切りまで2週間、抽選会まで3週間、開幕が1か月後に迫ってきた。

例年5～6月の練習試合は毎年ほぼ変わらない他府県の強豪校との定期戦。この日はA、Bの2チームに分かれ、Aはアウェイで東洋大姫路のグラウンドで、Bはホームで報徳学園を迎えての練習試合となった。夏までの練習試合も残すところ10数試合。チーム力がどこまで底上げされるか楽しみである。

硬式野球部 TOP PAGE^

2017年5月度のトピックス

2017年度 春季京都府高等学校野球大会2次戦 速報

5月16日

4年ぶりの首位奪取、10年ぶりの1.2位ゴール



高校体育祭が行われた。今年は健脚自慢の部員が各学年にそろい、全校にアピールする絶好の機会となった。

午前中に行われた校内最速を決める韋駄天走では各学年予選を部員が次々と勝ち上がり、決勝は1年が中村・今野、2年が井上、3年が水谷・寺田と6名中5名が硬式野球部員となった。結果は僅差で井上が優勝。2位が寺田。このワンツーフিনিッシュは07年の松本(3年)金子(2年、現埼玉西武ライオンズ)以来10年ぶり。

また午後からの最初のプログラム「クラブ対抗リレー」では京都サンガに何とか食らいつき、アンカーで長谷川主将が逆転し、4年ぶりに首位を奪還した。



最終プログラムのブロック対抗リレーでは5人の最終走者が全て3年部員となり、会場を盛り上げた。

クラブ対抗リレーの過去10年

今年度=優勝、16年度=2位、15年度=2位、14年度=2位、13年度=バトンミス圏外、12年度=優勝、11年度=優勝、10年度=優勝、09年度=バトンミス圏外、08年度=優勝、07年度=優勝、06年度=優勝、05年度=優勝(サンガユース参加)

5月3日

お父さん部隊の作業でリニューアル



両ベンチ裏の棚は練習や試合時に各個人のバッグや道具を置く貴重なスペース。10年前にOBの協力で骨組みが完成したが、経年劣化が激しい。特に使用頻度の高い3塁側は痛みが激しかった。

数年前に当時の保護者会長を中心にお父さん部隊が棚をきれいに張り替えて下さったが、今回も部長からの要請を快諾。GW中に3年のお父さん部隊が作業して下さい、鮮やかに生まれ変わった。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

平成29年度

春季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

5月4日(木) 1回戦 対龍谷大平安 (峰山球場)

番 序盤互角から中盤以降突き放され

● 立命館宇治 031 010 010=6

○ 龍谷大平安 310 050 00x=9X

【立】西成、玉田、卜部-藤原

【龍】大福、小寺-田島

▼3塁打 田島(龍)

▼2塁打 松本、山本(龍)森山(立)

【寸評】

立命館宇治は3点を先制された2回に3安打3失策で同点に追いつくと、さらに1点ビハインドの3回には2死1塁から7番・森山の左翼線2塁打で同点。5回には2死1塁から暴投～失策で勝ち越すなど、何とかゲームに食らいつく姿勢は見せた。

リリーの玉田は丁寧な投球を見せていたが、1点リードが重荷になったのか5回に5安打を集中され、5点を献上。球の切れ、制球は成長の跡がうかがえただけに、バッテリーの配球ミスが命取りとなった。

攻撃陣は7安打を放ったが、相手の5失策をもらいながらも突き放せず、特に3・4番の中軸は10打席でついに快音は響かなかった。

立命館宇治のマウンドは公式戦初先発の西成。春以降の練習試合では多治見、奈良大付、神戸国際大付相手に圧巻の投球を披露しており、この日の登板も決して奇策ではなかったが、制球に苦しみ、初回に5四死球で押し出し3点を与えて早々と降板。素質は一流と言われて1年が経ち、開花しそうな大輪は、周囲が「練習嫌い」と押す烙印を後押しする形となった。



※写真は公式戦初先発の西成漱石(2年)

1次戦

4月22日(土) 決勝戦 対同志社 (立命館宇治三室戸G)

番 2巡目から猛攻、玉田2安打0封

- 同志社 000 000 0=0
 - 立命館宇治 003 110 2=7X (7回コールド)
- 【同】 蕪城-伊藤
【立】 玉田-藤原
- ▼2塁打 斎藤(同)藤原、太田2、森山(立)

【寸評】

立命館宇治は2巡目となる3回から集中打を發揮。9番・玉田、1番・長谷川の連続安打を送った後、3番・寺田の左前打で先制し、続く4番・藤原の内野ゴロで2点目、5番・井上の左前打で3点目を入れた。

4回に1点を追加すると、5回には1死2塁から6番・太田のこの日2本目の2塁打で5点目。7回には無死満塁から7番・森山が左中間にサヨナラタイムリーを放った。

玉田は同志社打線に対して、7回被安打2、奪三振8で3塁を踏ませず0封した。

立命館宇治は2年ぶりに春の2次戦に進出。シード権かけて、王者・龍谷大平安に挑む。



※写真はサヨナラタイムリーを放った森山樹(3年)

4月16日(日) 2回戦 対田辺 (立命館宇治三室戸G)

番 7回5安打集中し、一気にコールド

- 田 辺 000 200 0=2
 - 立命館宇治 002 300 4=9X (7回コールド)
- 【田】 野村-横井
【立】 玉田-藤原
- ▼3塁打 光永(田)
▼2塁打 長谷川2(立)

【寸評】

立命館宇治は7回無死から3連打で満塁とすると、6番・太田が中前へ6点目とな

るタイムリーを放ち、7番・森山の犠牲フライで加点。連続押し出しの後、1番・長谷川が右中間を抜いて、コールドが成立した。

打線は田辺のエースから5回まで5安打6三振と打ちあぐねていたが、打席を重ねるにつれて、次第に球をとらえるようになってきていた。

先発した玉田は一回りは完ペきに抑えたものの、二巡目の上位打線には高めに浮いた球を痛打されたが、何とか投げぬいた。



※写真は6点目のタイムリーを放った太田東吾(3年)

登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	玉田 大剛	3	泉ヶ丘東 (大阪)	ヤング 大阪狭山
2	捕	藤原 彦貴	3	中央 (福井)	ボーイズ 鯖江
3	一	井上光志郎	2	大庄 (兵庫)	シニア 甲子園
4	二	森山 樹	3	四条曙学園 (大阪)	ボーイズ 生駒
5	三	大住 優賀	2	城陽	シニア 京都木津川
6	遊	長谷川 弘	3	田辺 (大阪)	ヤング 堺イーグルス
7	左	太田 東吾	3	東生野 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
8	中	今堀 寛基	3	立命館宇治	中学野球
9	右	寺田 泰清	3	御所 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
10	投	西成 漱石	2	桃陵	ボーイズ 枚方
11	投	卜部 大輝	2	立命館宇治	中学野球
12	捕	福井 開人	3	斑鳩南 (奈良)	ボーイズ 志貴
13	内	中村 祐太	3	山陽 (兵庫)	ボーイズ 龍野
14	内	西 祥太郎	2	桜井西 (奈良)	ボーイズ 奈良葛城
15	内	荒木 耀介	3	二名 (奈良)	シニア 奈良西
16	外	大井 貴之	3	立命館宇治	中学野球
17	外	大西 大賀	3	立命館宇治	中学野球
18	投	田村 竜一	2	加茂川	ボーイズ 京都洛中
19	外	水谷 祐介	3	豊中第九 (大阪)	その他 ニューヤンキース
20	投	秋森 晃希	2	枚方 (大阪)	シニア 高槻

2017年4月度のトピックス

4月30日

保護者会が定期総会を実施



毎年GWの初めに行われている保護者会定期総会がグラウンド隣接の生徒寮食堂で行われた。1年生の保護者にとっては初の参加。保護者会グッズの採寸などが行われた後、式次第にそって進行。冒頭に里井監督・石川部長から挨拶があり、新入生保護者の自己紹介が行われ、その後保護者会行事や夏の大会の応援体制についても話し合われた。

グラントでは練習試合がダブルで行われていたが、試合後は1、2年生のみでの紅白戦も行うなど、「せっかくお越しになっている保護者にお子さんのプレーを」と里井監督の計らいもあった。

4月9日

新顧問は理系の槍投げの元アスリート



2017年度の校務編成で、新たに顧問として中田溪先生が加わった。この日が練習試合担当であったため、グラウンドへ初登場。昼休み前に全員招集がかかり、部員の前で挨拶された。

自身は野球経験はないが、学生時代は陸上競技の槍投げ選手。部員に対して「野球のアドバイスはできないかもしれないが、一人のアスリートとして、またアドバイスできることがあればどんどんしていきたい」と意気込みを語られた。

授業でお世話になる部員も多く、生徒寮担当でもあるので、今後多方面でお世話になる。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)

2017年3月度のトピックス

3月28日

兄弟校・立命館慶祥と久々の練習試合



「北の立命館」立命館慶祥硬式野球部が京都へ遠征し、三室戸グラウンドで練習試合を行った。慶祥は数年前に全道大会を制し、道内でも屈指の存在となり、大学硬式野球部でもOBが活躍する。かつて「京都の高校野球を勉強したい」と卯滝前監督の下で勉強した滝本部長が、「是非とも宇治の野球を見せたい」と実現。チームは宇治市内のホテルを拠点に京都のチームと練習試合を行うが、まだ雪景色のグラウンドから来たとは思えない力強い戦いぶりに、勉強になったのはむしろ宇治の方であった。

3月26日

新戦力はいるか、新入部員24名が練習参加



新入生がこの日より練習に参加した。連盟規定により25日から認められているが、昨日はA、Bと2会場に分かれての試合だったため、今年度はこの日がスタートとなった。例年より粒ぞろいと言われており、今後が期待される。春休みは一日数時間の体験参加だが、入学式直後の週末からデビューを期待される者もあり、今のレギュラーを脅かす存在となるものが現れるか。

この日は小雨模様得ながら早くも元気な掛け声がグラウンドに響き渡った。

3月13日

OBたちが日系チームの臨時コーチに



1900年代初頭にカナダに暮らす日系人が、過酷な環境にあえぎながらも野球チームを結成。戦術やひたむきさでやがて白人に認められていったバンクーバー朝日は一昨年、妻夫木聡主演で映画公開され、話題となった。

本校OBの米田大祐がカナダに留学した際にコーチしたのが縁で、現在のバンクーバー朝日軍が来日し、この日中学生と交流した。午後からは太陽丘で実技練習。そしてコーチ役を任されたのが大学現役部員の、西尾・東野・伊藤・徳永OB。懐かしい面々が宇治キャンパスを訪れてくれた。明日は中学野球部とKボールで試合する予定だ。

3月12日

Aチーム4戦全勝で和歌山遠征を終える



1泊2日で行われる恒例の和歌山遠征は冬の成果を試し、今シーズンを占う試金石。A.Bの2チーム編成で8試合に参加したが、Aチームは初日に東海大会出場の藤枝明誠(静岡県)、近畿大会に出場した和歌山東に連勝し、翌12日も大体大浪商をコールドで破ると、午後からは三重を再逆転して4連勝で日程を終えた。打線が良くつながり、投手陣も厚みを増してきた。Bチームは試合経験の少ない部員を中心に高校入学以来、初実戦という部員がほとんど。こちらは2勝2敗で帰着した。

3月10日

巣立つ3年部員を一日早くグラウンドでお祝い



11日に卒業生を迎える26名の3年生部員が、前日のこの日にグラウンドへ後輩やスタッフに挨拶に挨拶に訪れた。例年は卒業式後にその足でグラウンドへ駆けつけるのが恒例となっているが、現役の和歌山県遠征と日程が重なるため、この日をお願いした。

秋春ともに1次戦敗退とい屈辱を味わいながら、夏は心をひとつにという「一心」を胸に秘め、接戦を勝ち抜く快進撃で、見事ベスト4へ進出した。里井監督からは「大学野球部で宇治OBの期待されているところは大変大きい。道は様々だが大きく飛躍してほしい」と言葉がかけられた。

3月5日

金城岳野コーチが就職で今月限りで退任



本校硬式野球部OBで、立命館大学スポーツ健康科学部の院生である金城岳野コーチが就職のため、今月限りで退任する。1年前から「今の研究や将来に役立つように」と志願してコーチになったが、タブレットで撮影した動画を試合後のバッテリーには必ず示してミーティングを行うなど、きめ細かい指導に部員からは大きな信頼を得ていた。

教員志望であり、滋賀県の私学に教諭として採用されることとなり、4月から新しい道を進む。今日、部員にはそのことが報告された。

3月5日

学年末テスト終了し、いよいよ球春到来



3日に学年末テストが終了し、全体練習が再開した。このテストでは例年より1日早く8日前より全体練習を取りやめ、学習に専念させてきたので、部員たちはこの日を待ちわびていたかのようにグラウンドに飛び出した。

テストが終了したとはいえ、学年行事や特別授業が展開されるため、まだまだ「野球漬け」とはならないが、3月11～12日には恒例の和歌山遠征も組まれている。この遠征は例年A、Bの2チーム編成で、より多くの部員にアピールの場が与えられるが、そのことを知ってか、グラウンドには監督にアピールする大きな声が響き渡った。

硬式野球部 TOP PAGE^

2017年2月度のトピックス

2月14日

合格発表の入部説明会に22名が名乗り



例年通り合格発表日に入部説明会が行われた。今年は学業推薦で例年にない人数が合格しており、昨年よりは多い。専願・併願受験者の中にはもう数名の野球経験者がいたが、合格は専願で1名のみ。

この日はまず部長からパワーポイントを使って部の方針を説明。また保護者には読書課題として「高校野球は親が9割」という本を読むことが義務付けられ、一冊ずつ渡された。

最後にチームグッズを採寸し、解散となった。

2月12日

臨時コーチも務める小栗OBが結婚



OBで大学硬式野球部でも副主将、そして代打の切り札として活躍した小栗(鄭)OBが結婚した。自ら運動具店を経営しながら、休みの日には三室戸に駆けつけ、後輩たちにノックし、居残りを希望する部員には付きっきりでバッティングを指導する。この日の新郎新婦を祝うパーティーでは里井監督が主賓挨拶。高校時代の懐かしいOBもたくさん駆けつけた。三遊間を組んだ埼玉西武ライオンズの金子侑司OBもビデオメッセージで参加。。また高校時代の野球部仲間からは夏の決勝戦(対福知山成美)でやらかした失策の連続が面白おかしく何度もビデオでリプレイされ、和やかな雰囲気となった。

[硬式野球部 TOP PAGEへ](#)

2017年1月度のトピックス

1月8日

心も身体も温まる、保護者会の炊き出し



1月8日、保護者会恒例の「炊き出し」が行われた。ゲームのないアウトオブシーズンは保護者もなかなかグラウンドを訪れる機会がないが、この行事により少しでもグラウンドへお越しいただき、新年の挨拶も交わそうとすっかり定着した行事。例年はグラウンドのネット裏で行われていたが、今年は朝から雨が予想され、急きょ室内練習場で行うことになった。

うどん入りの具だくさんの豚汁と善哉に、日ごろは部室で肩を寄せあって食事している部員も大喜び。何回もおかわりする部員が続出した。

1月4日

どこよりも早く年明けの練習を再開



年末29日の大掃除で練習を終えた部員たちだが、新春3が日を休んで、早くも4日から練習を再開した。出入りの業者によれば、この年未年始休みが最も短いのが立命館宇治で、早いところで5日から、6日再開というところも多くあるという。これでも前監督時より1日多い休みで、本来は自宅生のみでの練習だが、上級生の中には近隣のウイークリーマンションに泊まり、早くも練習に参加する者も。

例年通り監督・部長から年頭の挨拶があり、各ポジションをお神酒と塩で清め、無病息災願って、通常メニューに汗を流した。

硬式野球部 TOP PAGEへ